

「場のシンポジウム 2016」開催のお知らせに添えて...

与贈を巡る<身体>と<経済>  
~新しい医療と経営を支える共存在原理~

# 場のシンポジウム 2016

於：エーザイ株式会社大ホール  
2016年9月22日(祝・木)  
13:00~17:30

## なぜ『居場所』なのか？

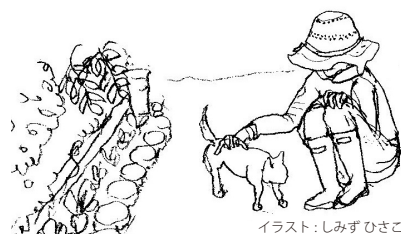
「〈いのち〉のつながりをつくっていく場」としての『居場所』

生きものを、〈いのち〉によって包んでいく環境のことを、『居場所』と言います。細胞に対する個体、人間に対する家庭、企業、地域社会、生態系、地球などが『居場所』の例です。生きものと『居場所』の間には、「生物学の原理」がはたらいていて、生きものが『居場所』に合わせて生きていくと、『居場所』の方もまた生きものに合わせて変化します。そして、鍵とそれを包む鍵穴とが互いに相手に合わせて変化をするような「相互誘導合致(そうごゆうどうがっち)」という活きが生まれて、生きものの



〈いのち〉が『居場所』の〈いのち〉に包まれるのです。生きものが生き方を変えれば、『居場所』の方もそれに応じて変わり、また『居場所』が変われば、生きものの生き方もそれに応じて変わります。

これまでは人間中心に考えて環境を変化しないものと想定してきましたが、すでに人間と『居場所』が共に影響し合いながら変化をしていくことを考えなければならぬ時代が来ています。それは、人間が「相互誘導合致」の法則をうまく活用していくことが求められる時代になるということです。



イラスト：しみずひさこ

「相互誘導合致」の法則の大きな魅力の一つは、これまでの時代にはない「新しい意味」を、私たちが生きていくことによって作り出すことができる点ではないでしょうか。その意味では、これまでは選択の情報(機械的情報)の時代でしたが、これからは意味の情報(生物的情報)の時代が来るのです。渴えた生きものが水を求めるように、すでに人びとの心は「新しい意味」に引かれるように動いています。



シンポジウムの目的は、「新しい意味」をつくることのできる生物学的な原理に合致した企業と社会は、どのようにすれば生まれるかを考察し議論することです。今、閉塞感を抱えるこの世の中に、「新しい意味」を発見しようともがいてる人にこそ、シンポジウムに参加して欲しいと切に願っています。

(2016.8.24 場の研究所)